

ami 2023年
1月27日(金)・28日(土)

第25回
全国大会
@online

設立
25周年記念大会



tomorrow's amistory
～だれもが主役 つながる その先へ～

特定非営利活動法人 全国精神障害者地域生活支援協議会

1997年7月、東京で行われた結成大会からあみは始まりました。今年は記念すべき25周年という節目の年になります。設立当時は、精神障害のある方たちの地域での活動は理解を得られてなく、「作業所の法定化」もされておらず、補助金制度がない自治体もありました。私たちの活動は「任意団体」と呼ばれる、そんな時代でした。そんな中、全国の地域で活動している人たちが集まり、地域での生活をより「居心地よく」「あたりまえ」のものにするために始まったのがあみの活動です。

今回の大会テーマは、「tomorrow's amistory～だれもが主役 つながる、その先へ～」です。あみのこれまでの活動を振り返り、そこから一人ひとりが何かを感じ取って新しい未来へと繋げて活かしていきたい…という気持ちを込めました。

25年の間に、私たちを取り巻く環境は、様々に変化していきました。法律や制度はもちろんのこと、近年では国際的な戦争、新型コロナウイルス感染症など不安な報道も多く、心が休まらないと感じている方も多いのではないのでしょうか。また、障害者総合支援法3年の見直しや、障害者権利条約の国連初の対日審査も行われました。法律や制度、私たちの考え方、価値観は時代と共に変化していきます。しかし、目指しているもの、根底にあるものは何一つ変わっていないと思います。

「変えてはいけないこと」「本当はもっとこうしたいこと」理想と現実の間で、時には悩むこともあると思います。自分を見つめ、これからの未来を見つめ共に考えていけるそんな大会にできたら幸いです。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

25th ANNIVERSARY 大会概要

- テーマ：tomorrow's amistory ～だれもが主役 つながる その先へ～
- 日程：2023年1月27日（金） 13：00～17：00
2023年1月28日（土） 9：30～17：30
- 開催方法：オンライン（ZOOM）による開催
- 参加費：① 会員・賛助会員 3,000円
② 一般 4,000円
③ 当事者・家族・学生 1,000円
※1月27日（金）17：30からの活動交流会の参加費は無料です
- 申込締切：2023年1月13日（金）※Peatixによる申込となります
- 振込締切：Peatixによる申込日より5日後以内に振込をお願いします

25th ANNIVERSARY 問い合わせ先

- 第25回全国大会事務局
（社福）ハートランド 就労継続支援B型 あっぷる 担当：山下（対応日時 平日13：00～15：30）
〒770-0045 徳島県徳島市南庄町5-13-1 TEL：090-5717-5613 FAX：088-679-8226
E-mail：info@heartland-apple.or.jp
- （NPO）全国精神障害者地域生活支援協議会事務局：あみ事務局（対応日時 平日10：00～15：00）
〒167-0032 東京都杉並区天沼2-3-9 伊藤ビル2階 TEL：03-6383-5673 FAX：03-6383-5674
E-mail：info@ami.or.jp

受付開始 12:30～

開会式 13:00～13:15 (15分)

あみ基調報告 13:15～13:45 (30分)

報告者：戸高 洋充・あみ代表（社福）藤沢ひまわり / 神奈川県藤沢市
結成 25年の歩みと共に、昨今の活動状況やあみの今後について報告致します。

行政報告 13:45～14:55 (70分)

報告者：金川 洋輔 氏 / 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課
障害福祉専門官（精神）地域移行専門官

「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直し」を中心に、関連する法制度等についてお話し頂きます。

休憩 14:55～15:10 (15分)

記念講演 15:10～16:40 (90分)

「治すのは患者さんではなく、社会ではないだろうか？」

登壇者：大西暢夫氏 写真家・映画監督 / 岐阜県揖斐郡

厚生労働省の検討会（令和4年6月9日第13回地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会）の参考資料によると、精神疾患を有する総患者数は約419.3万人。うち入院患者数は約30.2万人。また、そのうち精神科病床における入院患者数は約27.8万人であるといいます。国際的にも日本の精神科病床数は圧倒的に多く、世界の精神科病床の約2割が日本にあるともいわれています。

今年8月の国連による障害者権利条約における対日審査でも、精神科病院における多数の入院実態は障害者の権利を剥奪しているため条約に逸脱している、と強い勧告が我が国に下されました。こうした現状は長い間変わっていません。25周年の今大会の記念講演は、写真家・映画監督の大西暢夫さんをお招きしてお話頂きます。

大西さんは、精神科看護の専門誌の連載をきっかけに、2001年から19年間、精神科病院の入院患者を撮り続けてこられました。その写真には精神科病院に入院しているかどうかではなく、その人らしい豊かな表情が表れています。また、大西さんが2018年にメガホンをとった「オキナワへいこう」は長期入院の現実がユーモアに描かれつつも、問題提起がなされたドキュメンタリー作品となっています。病状も安定しているのに何十年も入院している人がいる。なぜ...?

一般には知られていない精神科病院の実態から感じた疑問を多くの人に共有してほしいと大西さんはおっしゃいます。誰もが社会の一員であり、誰もが排除されず参画できる社会。福祉の現場で活動する私たちを含めて、誰もが忘れてはならないことを大西さんの作品は訴えているのではないのでしょうか。

長い月日をかけて精神科病院の取材から、大西さんご自身が知ったこと、視えたこと、感じたこととお聞きし、今後の精神科医療、精神保健福祉の在り方について改めて考えます。この先、福祉に携わる者として何を思い、何を考え、どう行動に移していけばいいのか...。皆さんと一緒に考え、深めていける機会にしたいと思います。医療職、福祉職だけでなく、他業種の方から精神科医療、精神保健福祉の視え方を伺える機会は少ないかと思ひます。また、福祉職に携わり、私達が麻痺してしまっていることへの発想に気づきを得られることと思ひます。

社会は今、そしてこれからどうあるべきか、ともに考えましょう。



震災企画 16:40～17:00 (20分)

「福島・浪江町の今」～11年という月日もたらしたもの～

取材協力：(NPO) コーヒータイム / 福島県二本松市

映像編集：(NPO) あおば福祉会 マカナ / 東京都杉並区

昨年のあみ全国大会で「復興」への思いを語ってくださったコーヒータイム。東日本大震災で被災し浪江町から二本松市に移転し活動を続けてきたコーヒータイムですが、11年の時を経た2022年6月、皆さんの願いが叶い、除染された浪江町で活動を再開しました。今回はコーヒータイムや国の研究都市構想に指定された周辺被災地を取材します。取材した様子は自主制作動画を発信している就労継続支援B型マカナに編集作業を依頼しています。

1日目終了 17:00

活動交流会 17:30～19:30 (120分) ※受付開始 17:20

あみ全国大会では恒例の活動交流会です。オンラインならではの楽しい時間が広がります。全国各地の人たちと情報を交換したり親睦を深めたり、、、途中入室、途中退場も大丈夫な気楽な交流会です。お好きな食べ物、飲み物を持参してPCの前にお座りください。メインルーム以外に複数部屋を用意しますので、興味のある部屋に移動したりしながら新しい出会いが生まれる時間を一緒に楽しみましょう! 大きな声では言えない大会の裏話も聞けるかも!?

受付開始 09:10～
分科会 09:30～11:30 / 午前の部：A・B・C・D (120分)

詳細はP4～5をご覧ください

昼休憩 11:30～12:20 (50分)

分科会 12:20～14:20 / 午後の部：E・F・G・H (120分)

詳細はP5～6をご覧ください

☆午後の分科会の受付は12:00からとなります

休憩 14:20～14:30 (10分)

特別講演 14:30～15:30 (60分)

登壇者：ダニウス・プラス 氏 (精神科医・国連人権委員会 特別報告者)

ダニウス・プラス(Dainius Pūras)氏はリトアニア出身の精神科医であり、2014年には国連人権委員会から「達成可能な最高水準の身体的および精神的健康を享受するすべての人の権利」に関する特別報告者に任命されました。ダニウス氏は健康に対する権利の分野で、とりわけ子どもや精神障害者の権利に焦点を当てて活動されています。

多くの国際機関で専門家としてコンサルタントを務めてこられたダニウス氏から、権利条約に従って強制入院を廃止し地域生活を守る為のロードマップの作成と実行や、薬物治療や入院治療を正当化し生物医学主義に偏向する現在の精神医療の在り方から、より人間的な医療への転換についてのお話をうかがいます。



休憩 15:30～15:40 (10分)

シンポジウム 15:40～17:20 (100分)

「私たちができること・やるべきこと」

～国連委員会からの勧告を受けて「その先へつなげる」こととは?～

シンポジスト

藤井 克徳 氏 (日本障害者協議会：JD代表)

池原 毅和 氏 (日本弁護士連合会・東京アドヴォカシー法律事務所所長)

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 (調整中)

司会

内山 澄子 (あみ副代表) のうえい舎 / 千葉県浦安市

近藤 淳 (あみ事務局長) ガーデニング / 東京都豊島区

2022年夏に障害者権利条約の初の国連審査を受けた日本。9月の国連障害者委員会から出された審査結果(総括所見)では数多くの勧告が下され、我が国の社会には多くの障害者への権利侵害が存在している事実を指摘されました。精神保健福祉分野では精神科病院による長期入院、身体的拘束や虐待等が課題として挙げられ、精神保健福祉法や医療観察法といった非自発的入院を可能とする制度の「改正」ではなく「廃止」が求められています。

25周年記念大会の最後を飾るシンポジウムはこれらの強く大きな勧告を前に、私たちはこれからどのように考え、前に進んでいくのかを考える時間として場を設けます。シンポジストには、国連へのパラレルリポートの作成から関わり、8月の審査では現地ジュネーブにも同行された藤井克徳氏(日本障害者協議会：JD代表)、2021年の第63回人権擁護大会でも障害者の尊厳を訴えた日本弁護士連合会の池原毅和氏(東京アドヴォカシー法律事務所所長)、勧告を受けた日本政府側からは、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部の方にお越し頂きます。

障害者の権利に対する条約に「批准(国の主権者による承認、容認をした)」した我が国、日本。社会全体の意識変革をも求められた今、障害保健福祉のこれからについて議論を交わしていきます。

閉会式 17:20～17:30 (10分)

大会 2 日目の分科会は、「午前の部」「午後の部」の 2 つの時間を設け、それぞれ 4 つの分科会を実施します。
「午前の部：A・B・C・D」「午後の部：E・F・G・H」からそれぞれ 1 つ選んでご参加ください。
分科会によってはグループワークが設けられ、定員が定められているものがあり、定員に達し次第、締め切らせて頂く場合がありますので早めにお申し込みください。
定員に達した分科会は、Peatix の分科会申込欄での表記がなくなりますのでご注意ください。

午前の部：A・B・C・D 1月28日(土) 09:30～11:30 (120分)

分科会 A 「新人職員息抜きの場」～全国の同期と語り合おう！～

話題提供者：北島 沙希 氏 (NPO) あおば福祉会 あおばケアセンター / 東京都杉並区
(定員：25名)

皆さん、日々の業務で不安や悩みを抱えていませんか？同期はあまりいないし、周りは忙しそうに話せる時間が無いなど感じたことが色々あるかと思います。
この分科会は現場経験1～3年目の方を対象にしています。先輩職員から新人の頃の体験談を聞いたり、グループワークを行います。グループワークでは「職場の悩みや不安」、「自分が前向きな気持ちになれるのはどんな時？」という 2 つのテーマを中心にそれぞれ話していただきます。「面接や電話相談でなんと答えたら良いかわからない、先輩に聞きたいけど聞きづらい…」「愚痴を聞いてもらいたいけど、1人職場でなかなか吐き出せない」など、悩みは人それぞれで違うので何でも大丈夫！※内容はオフレコにしますのでご安心ください
この機会にモヤモヤした気持ちを全国の同期と共有しましょう！
「悩んでいるのは自分だけじゃなかった」「よし！また明日から頑張ろう」と思えるきっかけになればと思います。
ぜひご参加ください！
Instagramも用意しましたのでご覧ください。 <https://www.instagram.com/ami2022jp/>

分科会 B 「中堅という立場・役割の分かち合い 明日への糧に」～焼き鳥のネギ「間」のネギも大事でしょ!?!～

話題提供者：出口 琢也 氏 (社福) サンワーク 南八幡メンタルサポートセンター / 千葉県市川市
話題提供者：古賀 麻紀子 氏 (一社) てとて グループホームてとて / 福岡県糸島市
司 会：木下 いずみ (社福) 南風会 ハートピアみなみ / 愛媛県砥部町 (あみ理事)
(定員：25名)

中堅の役割って何？何年以上が中堅なの？中堅が実は何しているのか？職場から何を求められているのか分からない・・・そんなことを思ったことはありませんか。上司と後輩の板挟みになったり、若手の橋渡しの存在だったり、愚痴を聞いたり聞けなかったり。気が付けば中間的な立場になっていたけど悩みは様々。今回は現場経験5年以上の悩める中堅を対象に集まってみませんか？
前半は「新人」「中堅」を経て今のお立場になり、自分が「中堅」の頃にどのような悩みがあり、その悩みとどのように向き合ってきたのか、これまでの経験・実践を話題提供者お二人から対談形式でお話を伺います。「中堅」という立場だからこその悩みと向き合い、気づき、参加される方々と共有します。
後半はグループワークを行います。グループ内で日頃の「悩み」について話し、「違う地域でも同じように悩み、頑張っている人がいるんだな、自分一人だけじゃないんだ」と感じてもらえるような機会になればと思います。
蓄積されていくのは悩みや苦労だけなのか？経験や人との出会いが自分の財産になっていることもきっとあるはず。一緒に明日への糧にしませんか。

分科会 C 「住みたい暮らしを考える」～通過型グループホーム考察～

1部 話題提供者：大谷 友也 氏 (NPO) 共生ネットワーク オレンジホーム / 東京都豊島区
2部 話題提供者：大石 泰治 氏 (株) リカバリーセンター リカバリースペース桜 / 福岡県久留米市
話題提供者：石井 まい子 氏 はむらっぶ / 東京都国立市
3部 話題提供者：村上 大作 (一社) てとて グループホームてとて / 福岡県糸島市 (あみ理事)
4部 グループワーク
司会：松本直之 (NPO) 東京ソテリア 地域活動支援センターはるえ野 / 東京都江戸川区 (実行委員)
(定員：80名)

この分科会では、グループホームのあり方を通して、住みたい暮らしについて考え、話し合います。ここ数年、グループホームに関する状況が変化してきています。日中支援型グループホームという制度が新しくできたり、グループホームの数がとても増えてきていたり…そして、最近「通過型グループホーム」という言葉が出てきています。新しく始まるであろう通過型グループホームについて、すでに実践されている東京でのお話をお伺いします。
次に、グループホームを利用する立場から、ユーザー視点での意見や要望をお聞きします。そして、そもそもグループホームって何なのかという問いに立ち返り、その上で住みたい暮らしについて話し合っていきます。
時代の変化に合わせて、制度や状況は変わっていきませんが、その中で自分たちが大切にしたいことやそうでないものを話し合いの中で見つけ、また現場での実践に繋げていけたらと思っています。

分科会 D 「家族が主役！」～様々な家族のストーリーや思いを知ることから始めよう～

発表者：吉村 強 氏（親の立場から） 丹誠会 / 静岡県磐田市

発表者：坂本 拓 氏（子どもの立場から） こどもびあ / 神奈川県横浜市

発表者：三木 雪埜 氏（きょうだいの立場から） / 大阪府

発表者：島本 禎子 氏（家族相談を受ける立場から） 杉並家族会 / 東京都杉並区

コーディネーター：向山 晴子 氏 世田谷区保健所所長・精神科医 / 東京都世田谷区

（定員：定めなし）

親やきょうだい、子どもが精神疾患になったとき、家族はどのような思いで自らの人生を歩んできたのでしょうか。ご家族から相談を受けている中で、家族にも様々な悩みや葛藤に寄り添える場所が必要であり、支援者もそのひとつとなれたらと感じていました。そんな思いから、ご家族も安心して生活できるようになるために支援者になにができるのかと考え、まずはご家族のストーリーや思いを知ることが関わりの一歩ではないかと思い企画しました。

この分科会では精神障害の家族をもつ親、きょうだい、子どものそれぞれの立場から障害を知ったときの思いや喜び、苦労、支援者に伝えたい思いなどをお話しいたします。

現在、ご家族の立場としてもやもやを抱えている方、ご家族との関わりについて考えてみたい当事者の方、ご家族の相談を受けて葛藤している支援者の方、“ご家族”になにか思いをお持ちの方。そんな方々にそれぞれの立場の思いを尊重しながら様々な家族のあり方の一つとしてお話を聞いていただき、今後、家族と関わるヒントとなれば幸いです。

ぜひご参加お待ちしております。

お昼休憩は **50** 分間です
1 時間じゃありませんので、ご注意ください！



午後の部：E・F・G・H 1月28日（土）12：20～14：20（120分）

分科会 E 「自分の時間、何する時間？」～『持て余した暇』の支援を一緒に考えませんか～

話題提供者：尾崎 ミオ 氏（NPO）東京都自閉症協会 みつけばハウス / 東京都世田谷区

（定員：30名）

「事業所の中だと穏やかに、あるいは活発に過ごせているのに、ひとりになると不安や焦りが駆け巡り、落ち着かなくなる方が少なくない。そうして電話が多くなったり、誰かに依存して他者との関係が悪くなったり、遊びすぎてお金を使い込んだりしてしまう方に、どのような自分の時間の使い方が提案できるだろう？おすすめの趣味や休息の仕方を一緒に考えても、なかなか本人に合ったものが見つからない……」という、支援の中での困りごとから端を発した分科会です。

分科会では、まず、その持て余しがちな時間を一緒に過ごすことで支援されている方からお話を伺い、それをきっかけにしながら、ご自身の実践されている余暇活動支援や、困っていることなどについて共有するグループワークを行います。また、ご参加頂いた方には後日、各グループの記録や、あみ事業所会員からの余暇活動に関するアンケート結果を合わせ、文書データにてご報告させていただきます。

『持て余した暇な時間』を暮らしやすく過ごしてもらえそうな選択肢が増え、明日の支援の幅が広がることを期待して、皆さんと実践を伝え合えたらと思っています。

分科会 F 「就労継続支援 B 型のあり方について」～見て！聞いて！知って！全国津々浦々の事業所紹介も交えて～

講師：小池 秀明（社福）ブローニユの森 多機能型事業所さの / 栃木県佐野市（あみ理事）

話題提供者：ボーン・クロイド 氏（NPO）カラフルコネクターズ カラコネオフィス / 東京都墨田区

話題提供者：藤原 翼 氏 堀川 洋 氏（株）COLORS CREATION ブークトス / 大阪府寝屋川市

話題提供者：山口 隆充 氏（社福）ハイジ福祉会 八女作業所 / 福岡県八女市

（定員：定めなし）

この分科会は、現在の B 型事業所の報酬体系や生活支援についての講義と、全国津々浦々さまざまな取り組みをしている事業所紹介の 2 部構成となっております。第 1 部は工賃が高い B 型事業所が評価され、高い報酬を得ているという現在の報酬体系、それによる弊害や利用者の思いなどをお話して頂きます。また、B 型事業所は、ただ単に工賃優先や就労に向けての支援だけではないこと、障害者自立支援法ができる前と後での違いなどの話も交えながら、B 型事業所の持つ多くの役割についてお話して頂きます。

第 2 部は、オンラインならではの全国津々浦々さまざまな取り組みをされている B 型事業所の紹介をして頂きます。話題提供として「銭湯を経営されている事業所」「冠婚葬祭などで使用のお花を作成している事業所」「家族会から続いている事業所」のお話を聞かせて頂きます。第 1 部、第 2 部を通じてこれからの B 型事業所のあり方について皆さんと一緒に考える分科会になれば幸いです。

分科会 G 分科会 H は 6 ページをご覧ください。

分科会 G 「キレイゴトで終わらなくていい茶話会」～ココがへんだよ精神保健福祉～

話題提供者：入部 陽子 氏 (株)リカバリーセンター リカバリーセンターくるめ / 福岡県久留米市
話題提供者：星 流星 氏 五十嵐 佳大 氏 小林 祐司 氏 (NPO)あおば福祉会 マカナ / 東京都杉並区
(定員：40名)

日々過ごしたり、活動したりするなかで、役所で…、作業所で…、病院で…、アパートで…、などもやもやと感じていることはありませんか？

ピアスタッフ、ユーザーとスタッフの発表者の方々から日頃ここがへんだなと思うことをお話しいただき、参加者のみなさんと精神保健福祉のここがへんだ！ということについて、話を深め広げていきたいと思います。

地域で暮らしてみて「こんなことがありました」「こんなこと想っています」ということと、福祉サービスを利用して「このサービスの、ここが使いにくいんです」「こうなるといいのにな」ということなどを聴いて、イメージを膨らませてみて下さい。お話を聞いて思ったこと、自分も感じることを少人数のグループで話し合います。話をうまくまとめる必要はありません。むしろ、キレイゴトは抜きにして、日ごろ思っているけれどなかなか言えないことを、肩の力を抜いて、「言っぱなし」で話し合えたらと思っています。

オンラインなので、パソコンやスマホの前に、好きなお飲み物をみなさんご用意ください。飲み物を飲みながら、リラックスした雰囲気楽しく、お話ししましょう。

分科会 H 「演劇って、みても！やっても！おもしろい！」～表現することで生まれる対話～

話題提供者：(NPO)東京ソテリアスタッフ / 東京都江戸川区
2022アルテ・エ・サルデーテ「マラー/サド」出演者

話題提供者：(NPO) BASE 就労継続支援B型BaseCamp一同 / 東京都豊島区

話題提供者：(NPO) SAJA たんぽぽ一同 / 香川県丸亀市

西谷 清美 氏 (学) 四国学院大学社会福祉学部 / 香川県善通寺市

仙石 桂子 氏 (学) 四国学院大学社会学部 / 香川県善通寺市

北村 菜由 氏 劇団オムツかぶれ / 香川県

(定員：定めなし)

この分科会では、「精神障害」という共通点をもちつつも、三者三様！な「演劇」の実践をご紹介します。

表現って？社会って？そもそも精神障害ってなに？…そんなことをふと考えるような時間になる予感です。

精神病院のない国・イタリアにて精神障害当事者がプロフェッショナルの俳優として活動するアルテ・エ・サルデーテ劇団と、日本の精神障害当事者・医療福祉従事者達との出会いを生み出し、作品を作り上げている「東京ソテリア」の実践。

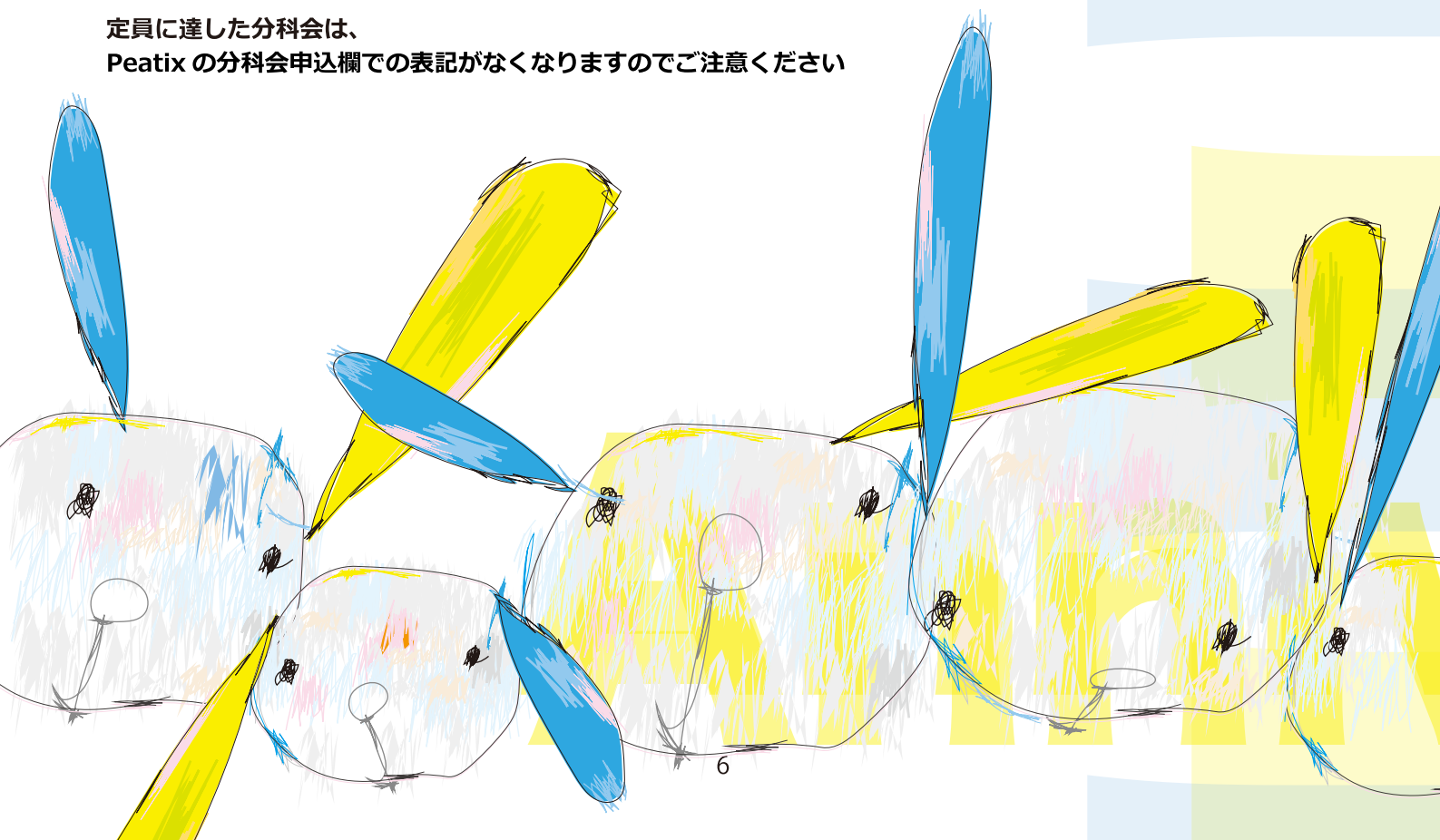
演劇って劇場のものだけじゃない、‘すでに本番なのだ！’と日常を舞台に、おしゃべりしているうちにいつの間にか即興劇が生まれる「BaseCamp」の実践。

自らの精神障害の経験をもとに、事業所のみにとどまらず、アーティストや地元香川の大学生たちと出会い、ともに‘ダンテライオンズ’という演劇作品として発表した「たんぽぽ」の実践。

精神障害当事者、教員、医療福祉従事者などが、ともに「演劇」するものとして、表現活動の実際や発見、面白さといった生の声をお届けします。三者三様でありつつ、不思議と共通する「演劇」の魅力がきっとみえてくるはず(!?)

定員に達した分科会は、

Peatixの分科会申込欄での表記がなくなりますのでご注意ください





- 1 **申込みはオンラインのみとなります。**
以下のPeatixのURLもしくはQRコードからお申し込みください。
申込URL等は、あみホームページにも掲載しています。
ホームページ (<https://www.ami.or.jp>) の「大会情報」をご覧ください。
申込みURL→<https://peatix.com/event/3396110/view>
- 2 **あみ会員事業所の方へ**
必ず「**会員登録している事業所名**」で申込をお願いします。
会員登録している事業所と同一法人内での別事業所名で申し込まれますと、参加費が異なりますのでご注意ください。
- 3 **分科会について**
分科会が定員に達した場合は、申込段階で定員に達した分科会名の表記がサイト上からなくなります。
その際は申し訳ありませんが、表記されている分科会の中からお選びください。
- 4 申込みは必ず**お一人ごと**をお願いします。（1回の申込で複数名の申込みはできません）
- 5 **申込締切は2023年1月13日（金）**となります。申込締切期日を過ぎてからの申込みはできません。
- 6 **申込みを行なった方には、Peatixからメールが届きますので、メールの確認をお願いします。**
Peatixからの送信先は、申込時に記載したメールアドレスとなります。
注) Peatixからのメールが届いても、振り込みが行われないと「申込完了」とはなりません。
- 7 参加費の振り込みをお願いします。URLもしくはQRコードで申し込まれた後、**5日以内に振り込みをお願いします。**
Peatixでの申込後、Peatixから「申込受付」のメールが届きますが、**参加費の振り込みまで済みませんと「申込完了」とはなりません**のでご注意ください。
- 8 **領収書について**
Peatixの「**マイチケット**」から受け取ることができます。大会事務局からの領収書発行はございません。
- 9 **大会資料について**
大会実施前に参加者の方へ大会資料（ダウンロード先のアドレス）をメールにてお送りします。
当日は資料をダウンロードした上でご参加ください。
大会資料の送信先は申込時のメールアドレスとなりますので、申込時のメールアドレスは資料（データ）が受け取れる端末のアドレスをお勧めします。

Instagram 全国大会のインスタを立ち上げました！
進捗状況などもアップしています。ぜひ、ご覧ください。
<https://www.instagram.com/ami2022jp/>